

平成20年度 大学院工芸科学研究科博士前期課程 学位記授与式
学長告辞

今日、ここに、修士課程を無事終えられ、学位授与式に臨まれた437名の皆さんに対し、心からお祝いを述べたいと思います。また、皆さんの勉学・研究を支えてくれた、ご家族を始めとする多くの方々に対し、深く敬意を表します。

京都工芸繊維大学は、昭和63年に工芸科学研究科を設置し、これまでに、5494名の修士号取得者を生み出し、多くの知的財産を着実に蓄積してまいりました。本日は、皆さんに、第5495号から第5931号までの修士の学位を授与させていただきました。皆さんは、学部卒業の後、専門を深めるというそれぞれの目的をもって大学院修士課程に進学されました。そして、2年間の教育課程で研鑽を積み、輝かしい成果を挙げ、本日＝目出度く学位授与式を迎えられました。

皆さんの中には直ぐに社会にでる人もいるでしょうし、これから博士課程でさらに研究に従事する人もいるでしょう。あるいは、祖国に帰り、祖国の発展のために働く人もいるでしょう。それぞれの将来計画の実現に向け、勇往邁進されることと信じています。その際、本学の修士課程で研鑽し習得した成果を十分に活かし、人生の新しい段階を切り開くよう一層奮励努力されることを祈って止みません。

皆さんは、今日を境として新たな希望に向かって進まれることになりますが、皆さんを待ち受ける社会は決して明るいものばかりではありません。数年前までは、世界的に好景気な社会でありましたが、サブプライム問題が発生し、世界的な金融恐慌が起こり、経済的不安が世界中に広がりました。深刻さの程度は大きく、100年に一度の大恐慌といわれています。どうしてこのようなことになったのでしょうか。

2008年にノーベル経済学賞を受賞したプリンストン大学のクルーグマン教授は、自由貿易とグローバル化が経済に与える影響を理論的に分析し、早くからこの世界的金融恐慌の発生について警鐘を鳴らしていました。クルーグマン教授は、「規模が大きいほど生産性が高まる」、「消費者は多様性を好む」といった概念を基に、地場の小規模な製造業が世界市場向けに大量生産する大手に取って代わられるプロセス、都市への人口集中がおこり周辺地域の過疎化が進むプロセスを明らかにしています。クルーグマン教授によれば、今回の世界的な経済の行き詰まりは、社会が自由貿易とグローバル化に従った当然の成り行きだったのです。そして、自由主義がもたらした巨大な不均衡が、世界中の多くの人々に貧困という苦痛を与えるようになってしまったのです。このような困難をどのように克服するかは、我々に課された重大な課題であります。

そこで、今日は、この社会的な困難にどのように向き合うべきかに関して、一言申し上げたいと思います。それは、自由ということについて、今一度再考していただき、自らの自由を抑制し、他者の自由を尊重した行動をしていただきたいということでもあります。

現代社会では、「自由」は外からの束縛がない状態、勝手気まま、自分本位といった意味あいでは捉えられています。従って、いわゆる自由主義経済においては規制緩和をし、市場に任せることが是とされてきました。そして、社会はこの自由を性急なまでに志向しました。その結果、大きな社会的な歪みがもたらされ、今回の金融危機のみならず、地球環境の急速な悪化、格差拡大など、地球の存亡に関わる問題が引き起こされることになりました。

しかし、「自由」にはもう一つの意味があります。禅において、「去来自由」あるいは「自由自在」といわれているもので、それは生命を礙（さまた）げず主体的に生きることという意味です。禅が否定するのは自由自在を礙げる物事であり、禅によって我々は自由自在へと導かれるとされています。ここでは、自由は自律的に生きることであり、それは、自然や他者との共生を自律的にコントロールして、互いの生命を全うすることとされます。「行雲流水」といわれるこだわりのない心境です。行く雲、流れる水、落ちる葉、散る花は自然の営みで、無常な現象です。これを禅では人の在るべき生き様としています。

このような2つの自由に関して、ロシア生まれの政治哲学者・思想史家のアイザイア・バーリン（Isaiah Berlin, 1909-1997）は、その著書「自由論」のなかで、自由という概念は、消極的自由（negative liberty）と積極的自由（positive liberty）に分かれるとしました。消極的自由とは、「からの自由」（free from）と表されるもので、他者の権力に従わない、他者の強制的干渉を受けないことを意味します。これに対して「積極的自由」とは「への自由」（free to）と表されるもので、自己の意思を実現しうること、自己の行為や生存が自己の意思や決定に基づいていることとされています。したがって、特定の立場の人々の積極的自由の行使は、他の人々の自由な行動を犠牲にしてしまうという結果を招くことがあります。

2つの自由の概念は両立するものではなく、一部の人の積極的自由が、別の人々の消極的自由を侵犯するということが起こります。現在の社会的状況は、まさに、一部の人の積極的自由が、別の人々の消極的自由を押さえ込んでいる状況であると思います。

バーリンは、基本的人権に代表されるような、いかなる権力によっても侵害できない権利として消極的自由を守ることの重要性を指摘しています。個人の多様な生き方、選択のあり方を認める多元主義の下では、自由の範囲は中庸なものになるべきであると主張しています。人は、自ら礙（さまた）げなく主体的に生きるだけでなく、他者をも礙（さまた）げることなく自律的にコントロールすることが求められるのです。このように、普段あまり省みることのない

「自由」という概念は、社会の中でどのような影響を及ぼすかを考えたときに、複雑な様相を呈するのです。「自由」を他者に従わないことと見れば消極的自由の側面が現れ、自己自身に従うことと見れば積極的自由の側面が現れます。そして、個々人の自由の行使は、否応もなく他の人々の自由の行使に影響を及ぼすのです。

現在の、自由主義経済の行き詰まりは、世界の人々に、あらためて自由な存在とはどのようなべきかということ問いかけています。その表れのひとつとして、アメリカのオバマ大統領の掲げる「CHANGE」では、「自由」を新たに捉えなおすことによって、自由の国アメリカの新たな発展を目指していると考えることができます。

皆さんは、それぞれ、自らの自由を享受しつづけたいとお思いでしょうが、社会全体を見たときに、個人の自由がどのようなべきかを、今一度考えていただきたいと思います。皆さんに希望することは、他者の自由を礙（さまた）げることのない自由を目指していただきたいということです。

明日からまた新たな挑戦を始めることになる皆さんには、本学で学んだことをそれぞれの立場でさらに深め、新たなパラダイムを構築して、この人類の負の遺産ともいうべき問題を解決していただくことを期待します。

皆さんの活動が世界の人々の幸福に大きく貢献することを祈って、私の告辞と致します。

本日は、修士の学位取得、まことにありがとうございます。

平成21年3月25日
京都工芸繊維大学長
江島 義道